

【国立公文書館における現在の取組】

<外部有識者の活用>

- ・展示に係る助言(ジョン・F・ケネディ展における監修等)
- ・研修講師、修了論文審査員 など



<民間の活用>

- ・受付業務における民間の活用(特別展開催期間、企画展の土曜開催時)

など



【今後の展望】

○ 展示・学習の内容充実等に向けた外部の知見の活用

- ・・・展示の企画、館の広報活動における外部有識者・専門家の知見の活用、展示内容や学習プログラムの充実に向けた教育機関との連携 等

○ 利用者サービスの充実に向けた民間のノウハウの活用

- ・・・ミュージアムショップ、レストラン及びカフェなど利用者サービスの提供におけるPFI方式の活用、民間委託の実施 等

【参考】 諸外国の国立公文書館における外部有識者・民間の活用例

(フランス国立公文書館)



子ども向け書庫見学ツアー

展示の企画を行う際には、そのテーマに合わせて専門家や教員等も外部委員会を組織。大学ともパートナーシップを結び、大学の教員も企画に参加。

子供向けの書庫見学ツアーなどの学習プログラムの開発においては、元教員の職員が専属でプログラムを企画し、歴史学や文書学の専門家の意見も取り入れてプログラムの内容を検討。

(アメリカ国立公文書記録管理院)



ミュージアムショップ

財団(Foundation For The National Archives)が運営し、商品は一般的なお土産のほかにアパレル、書籍、所蔵資料の模造品、子ども向けの玩具、研究材料、企画展関連商品など多岐に亘る。